

SDGsアドバイザーボード委員「サマリーの方向性」に関するご意見及び回答

参考資料 2

No	委員	ご意見 (サマリーの方向性についてのご意見)	対応案
1	蟹江委員	サマリーのタイムライン、いつぐらいに達成していく予定なのかっていうその点聞かせていただいてよろしいでしょうか。	完成は令和8年3月を目途に完成するイメージとなっております。
2	蟹江委員	12の優先課題が、沖縄のSDGアクションだということですよね。だから、何かもうちょっと工夫して、例えば昨日あの話、ハワイだとアロハプラスっていう形で出してましたけれども、例えばしまくとうばで適切なもので、それが、沖縄にとってのSDGsだというような出し方をすると、もっといろんな人にこの12の優先課題が浸透しやすくなるんじゃないかなというふうに思いました。12の優先課題をもう少し、ちょっと魅力的に扱えるような形にするといいんじゃないか。	12の優先課題を中心にサマリーの作成を予定しております。また、12の優先課題を県民に分かりやすく発信する方法を検討しております。
3	和田委員	外部の視点っていうのが入ったほうがいいところかなと思いますので、例えば来年1年間あるのであれば、いろんなSDGsのイベントに来た人にインタビューしたりだとか、意見を求めるワークショップを、ステークホルダーに開いてみたり、それこそ私たちアドバイザーボードの方から提言させていただく形で、サマリーの本編のところでいろんな人からの意見を聞いた上で書いていく、というプロセスがあるというのではないかなと思った。	外部の視点を含めた評価を検討しております。また、若者を対象にワークショップを開催し、12の優先課題の解決を目指したアクションを考えております。
4	北村委員	沖縄県がやってることを沖縄県だけで評価していていいんだろうか、つまりいろんな立場の方々の視点の中で、モニターするべきじゃないか。	外部の視点も含めた評価を検討しております。
5	北村委員	評価しづらいものをどう評価していくのか、指標だけ、数字だけを追っかけようとしすぎないで、定性的なものも含めて評価していくことが大事じゃないか。 例えば文化みたいなものは、指標化するのが非常に難しいが、その文化的なものっていうのを、やはり沖縄らしさの文脈の中で、大事にしている。それじゃどういうふうに評価するんだろうかっていうことはかなり難しさがあると思うが、非常に沖縄らしいSDGsの取り組みとそれに対する評価、平和っていうのはそこに繋がるようなことがあるか、必ずしも数値化しづらいものをやはりしっかり評価していくっていうことも、このモニタリングの中では大事にされる必要があるんじゃないか。	定量的な指標だけでなく、定性的な指標を含めた評価を考えております。
6	島袋委員	評価っていうことに関しては、内部評価・自己評価っていうことは評価の力としては、ちょっと弱くなるんで、外部性をいかに確保するかっていうところ。その外部性の中に、やっぱり県民を主体とした参加っていうのが1つ必要なのかなという意見です。	外部の視点を含めた評価を検討しております。また、若者を対象としたワークショップを開催し、12の優先課題のアクションや県民にわかりやすく発信する方法を検討しております。
7	平本委員	自分たちで勝手にサマリーを作るんじゃなくて、例えばその読み手になりうる県民と一緒にサマリーを作りますっていうことであれば、当然時間をかけてやってやらないと、できないものですので、そういった意味では、しっかりと県民を巻き込んでっていうのは、結構案としてはあり得るんじゃないかなというふうに思ってます。	若者を対象にワークショップを開催するとともに県民に分かりやすく発信する方法を検討しております。

No	委員	ご意見 (サマリーの方向性についてのご意見)	対応案
8	平本委員	サマリーは、平和と文化に重点を当てて伝えるというようなことをして、そしてさらに県民に伝えるっていうのはウェブサイトとかに出すだけじゃなくて、何かそのワークショップであったりとか、そういうような場所で少し対話をしながら、伝え方も一緒に考えるというような、その中で、一緒に提言を作ったものもしっかりと反映できるようなルートっていうのもきっちりと確保しておいて、反映したことがわかるように外部に伝えるっていうようなことを設計をしながら、進めていただけるといいと思います。私個人の意見としてはそういった中で、若者を中心に据えらうと、すごく効果も大きくなるのかなと思いますので、若者にフォーカスするのか、グループの1つとして若者を入れるのか、どちらかの観点で加味していたらありがたいなというふうに思います。	指標で評価しづらい文化や平和の視点を取り入れることを考えております。また、県民にSDGsの取り組みを分かりやすく発信することや若者を対象としたワークショップを開催することを考えております。
9	玉城座長	12の優先課題を一旦中心においた方がいいんじゃないかなと思って。SDGsの12の優先課題も実は授業の中でしっかりと教えた上で、ファシリテーターで地域に下りていくってことをやるので、だからそことやっぱりちゃんと連携をしていって、もうファシリテーターぐらいの技術を彼らはすごく、素晴らしい持っているので、そういった彼らとの連携が非常に重要かなっていう、思っています。 もうすでに県庁の中で仕組みを作りつつあるので、ぜひこのSDGs推進室の方もそこと連携されると私はいいんじゃないかなっていうふうに思います。	12の優先課題を中心に評価を考えております。若者を対象としたワークショップを開催し、12の優先課題の解決に向けた県民にできるアクションを考えております。
10	蟹江委員	サマリーというよりもむしろ、別の名前にしたほうがいいと思います。評価報告書とか、沖縄版VLRでも私はいいんじゃないかなという気がしますけれども、沖縄版のローカルレビューで何か、その沖縄らしい名前をそこにつけるっていう、外に対してはVLRだと、中では、これは沖縄らしい名前の評価書というふうにすると良いのではないのかというのが1つです	しまくとぅばを使うなど沖縄らしい名前の評価書を検討してまいります。
11	蟹江委員	12の優先課題を中心に、評価するっていうのが、非常に重要ではないかなというふうに思います。	12の優先課題を中心に評価を考えております。
12	蟹江委員	国の方の部VNRのまとめるので情報共有します。 VNR作成は、前半に国が指標を基にした分析と解説、後半にステークホルダーの取り組みと評価という形で後半のステークホルダー評価部分では、13のステークホルダーにタスクアウトし、それぞれの取り組みを記述してもらう予定です。 13のステークホルダーは、ビジネス含む中小企業、ファイナンス含む地方金融、市民社会、消費者、公共的な活動を担う民間団体（生協等）、労働組合、ジェンダー、ユース、教育機関、研究機関（教育機関と統合も検討）、地方自治体、メディア、議会 となっています。 これらのステークホルダーからの情報を集約し、文章を整え、全体をまとめたものを再度各ステークホルダーに共有して確認していく流れになっています。 沖縄県の中で、プラットフォームとか、いろんな仕組みがありますので、そういった方々に、ある程度自分たちの活動を中心として、こんなことやってるっていうのを書いていただいて、それをこの委員会でもまとめるなりして、何かそういうやりとりをすると、本当に沖縄県でSDGsの活動どんなふうに行われてるかっていうのがわかると思いますし、載せられた方も責任を持たざるをえなくなると思うので、これ書いたからには、やっぱりちゃんと次もやんなきゃいけないっていう気持ちになると思いますし、そういうやり方が1つ有りうるのではないかなというふうに思います。	SDGs専門部会、県庁内の関係部局、プラットフォーム等と連携していくことを検討してまいります。

No	委員	ご意見 (サマリーの方向性についてのご意見)	対応案
13	佐野委員	実施指針に挙げられているステークホルダーから意見を聞くというのが重要ですし、先程の「平和」や「文化」にフォーカスしたいというところも、このステークホルダーの記載に入れていたの で、ここで掲げられている人たちからお話を聞くことによって、沖縄らしさというのが出るのではないかと思いました。	「平和」や「文化」を取り入れ、沖縄らしいサマリーを 考えてまいります。
14	佐野委員	軸としてその12の優先課題で、それが載ってるのは実施指針、実施指針と一緒に巻き込んでと一緒 にやりましょうって言うてるステークホルダーの皆さんから見て、この12の優先課題っていうのが、 自分たちの巻き込まれ度も含めてどうだったのかっていうことを、モニタリングの方で、数値が 出てくるわけです。数値定量的な、評価が出てくるわけですからもうちょっとそのストーリー、 いわゆるナラティブって言われてるもので、書き下すみたいなイメージの方が、何か皆さんが今イ メージしているものに合ってるのかなあという気がしたんですね、12の優先課題を1つ1つを見て、 こういうものを目指してたんだけど、本当にそれが、達成されてるっていうふうに実感できてるか とか、達成に向かって、アクターの皆さんがアクターとして巻き込まれているかっていうところを 測る、何年かに1回だったらまさにそこを吸い上げていく方が、何かこれを作る意味とか、より次に 繋がるというものになるんじゃないかなと思いました。	軸は12の優先課題で考えております。また、ステークホル ダーを巻き込んだサマリー作成を検討します。
15	平本委員	12の優先課題もフォーカスする部分を決め、関連する取り組みについて評価をすると決める。その 時にすでに動いているものとうまく連動していることはとても大事になるため、ステークホルダー の方の活動をちゃんと紹介する。その上で自分たちと県の動きはどこに接点があるのか、ここはす ごくよかった、新しくこういうようなところは期待したい、という意見を示す。事例が入ってくる ので、すごく沖縄らしさが表現されると思うんですね。沖縄という言葉が消したときに、どこの自 治体かわからない記載になっていると意味がないということです。そうならないためには、すごく ナラティブな話が組み込まれていることが重要です。私たちもこういうふうに議論しておりますけ れども、私たちの意見よりも、ステークホルダーの生の視点として、報告、評価をしていただくの が一番大事なのかなと思っております。ステークホルダーの方々も、自分たちの取り組みを後押し してくれる取り組みなのであれば、積極的に参加をしてくれると思います。そのために、例えばレ ビューをしたら、その組織の活動をちゃんと後押しをしてくれるというインセンティブが見える化 されていると、多くの人たちの参画を促すことが出来るのではないかと思います。いきなり最初か ら理想的なものはできないと思いますが、ぜひ県の皆さんが活動してる中で、ここは結構一緒に連 携してくれてるなという組織もあると思いますので、県の方からお願いしますとお声がけいただい て、進めていただくのがいいのではないかと思います。	プラットフォームの取組事例と12の優先課題を紐づけた サマリー作成を検討します。

No	委員	ご意見 (サマリーの方向性についてのご意見)	対応案
16	湊辺委員	数値化できない評価をどうするか。非常に微妙な問題だと思いますけど、この評価の基準をどこに置くのかということは、これも課題の一つではないかなと思っていますところでもあります。企業も一生懸命やっており、最近はSDGsをやっていないところは採用にも影響するというぐらい、SDGsを意識しています。 それぞれ大企業、中小企業、零細企業では全然違いますので、対象者のどこにもう1回アンケートするかということも、意外と大きな課題なのかなと思っています。全員がある意味で納得できる指標を作るとか、全員は無理ですけども、ある程度納得できるところ、作っていくべきかなと思っています。 非常に意識の高い人とそうでないところとまだまだギャップがあると思いますので、意識の高い人が引っ張っていくことこそ、リーダーシップが必要ですけど、どうやって幅広く同じところを見ていくか、見させていくかということも、この会議の中では、必要なところじゃないかなと、取り組みとして必要じゃないかなと思うところでもあります。	プラットフォームを活用し、パートナー団体や認証団体などと連携して取り組みを広げてまいります。